

岡山県大学図書館協議会平成 25 年度研修会報告書（ワークショップ）

参加者が持参した破損本に無線綴じの資料が多かったため、無線綴じの修理方法を中心にワークショップを行った。

頁が 1・2 枚とれた程度なら、普通はテープでとめたりのりではったりして修理をするが、今回は少し手を加える方法が紹介された。

【修理方法】

1. 表紙をはずす。

のどの部分に力をかけ、2～3 枚ずつ頁をはがしていく。表紙と見返しの小口部分が袋になっている場合は、ペーパーナイフを使って表紙と見返しに分ける。

見返しに地図などが載っていて、それを残したい場合は、予めカラーコピーをとっておき、元に戻す時に貼りつける。

2. 頁がすべて外れたら、さらに細かくはがして残っている古いのりをきれいに取る。

3. 取った頁をきれいに束ね、上下にひもをかけ縛る。

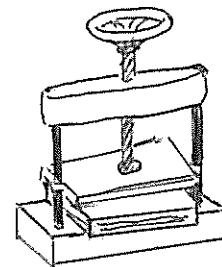
4. 束ねた頁の前後 4～5 枚の縁に 2～3 ミリの幅（文字にかからない程度）で薄めたのりを入れる。（力がかかりやすい部分を補強するため）クリップ等で背の部分を固定する。

5. 手機械に背側が少し出るように挟み、横にする。（背を上にして本が立った状態にする）

6. のこぎりを使い、背に細かい傷をつける（古いのりを取るためと、新しいのりがしみこみやすいように）

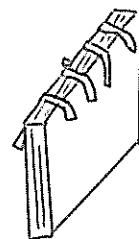
7. 背に 4 本深めの溝をつける。（深さ 2 ミリ程度）

8. 水で薄めたのりを背にまんべんなく塗り、背の部分をクリップで固定したら乾くまでこのままの状態で置く。（丸背の資料の場合はのりが乾燥した後、前後数頁をずらして中身にも丸みを持たせておく）



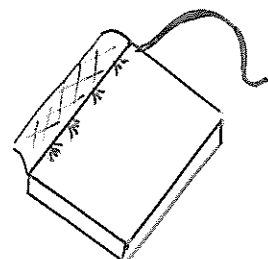
9. 寒冷紗（資料を同じ高さ×背の 2 倍程度）と紐（背に掘った溝に入れ込むと少し垂れる程度の長さのタコ糸）を 4 本用意する。

10. 背に薄めていないのりをたっぷり（溝が分からなくなるくらい）塗り、用意したひもを溝に押し込む。その上にさらに薄めていないのりを塗り寒冷紗を網目がのり側になるように貼る。しおりがある場合はここで挟み込む。背が広がらないようクリップで挟んでおく。

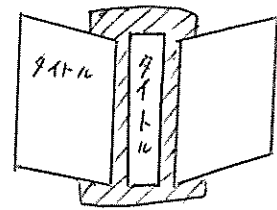


11. のりが乾いたら手機械とクリップを外し、糸を文字にかからない程度の長さに切る。

12. 糸を爪などでつぶしてよりを解いたら、余った寒冷紗を糸が隠れる程度の大きさに切り、本体に接着する。



13. はがした表紙の背の部分が弱っていたり剥がれてしまっている場合は、クロスや紙を内側から貼り補強をする。上製本で表紙が固い場合は、必ず背の両脇に溝ができるようにする。また、表紙内側の紙の背に近い部分をカッターなどで軽く切ってから少しはがし、分厚くなり過ぎないようにする。クロスの天地は表紙をくるむようにしてもよいが、クロスが見えるのが気になる場合は、縁に沿って切り取る。



14. 表紙と本体を貼りつける
- ・ 平らな背の場合は、背にのりを付けて背と接着する。※一度バラすとどうしてもずれてしまうので、表側から合わせてずれが裏に出るようにする。
 - ・ 見返し（効き紙）を切った場合やカラーコピーを取った場合は、ここで貼りつける。
 - ・ 丸背の場合は中身と表紙の背の間に隙間ができるので、背の脇の溝のあたりで接着し、製本テープや紙で補強する。
15. のりが完全に乾いたら完成。

※必ずのりが乾いてから次の工程に進む。のりが乾くまでは決して開かないこと。

※のりは木工用ボンドを使う。そのままの固いものと、水とボンドを 1 対 1 で薄めたものを用意する。